

〈クリフォト〉

黒魔術タロットの秘法

あなたのまわりにひそむ“悪の力”を見抜き追いはらう！

社会の暗部^{あんぶ}にひそみ、人間の心を食べ物にしようと待ちかまえている邪悪^{じやあく}な魔物^{まもの}たち。それが「クリフォト」と呼ばれる悪^{あく}の根本要素である。彼らの魔手^{ましゆ}からいかにして逃れるか、その秘法^{のが}を紹介しよう。

文=金沢ともや

イラストレーション=小野貴志



邪悪の根本要素「クリフォト」の恐るべき正体

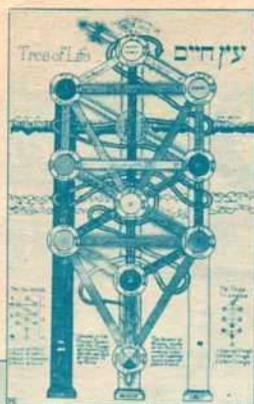
人間の心を食い物にする邪悪な魔物たち

邪悪な魔物たちが、私たちの世界に大量に入り込んでいると聞いたら、あなたはいつたいたいと思うだろうか？

聖書にも、仏典にも、またあらゆる宗教、神話にも、悪魔の存在が明言されている。角がはえ、醜い形相をした悪魔……。

しかし、本当の悪魔たちは、もっと巧妙に、姿を思いのままに変えて人間の欲望の中に隠れ、人間の心を食い物にするチャンスをつと待っているのである。

古来より人間は、魔術という方法を用いて、こうした魔物を退治する悪魔ばらい（エクソシズム）を行ってきた。



生命の樹

現代の魔術において「生命の樹」ほど重要なシンボルはない。

もともと「生命の樹」と呼ばれていたシンボルはたくさんあり、魔術に使用されているものは10の「セフィロト」と名づけられた球と、その球をつなぐ22本の「径=パス」から成り立っている。

生命の樹は、人間の精神的な骨格、宇宙の構造、さまざまな事物の中に見られる個性など、あらゆるものを対応させることができる万能図形だ。

そのため、生命の樹に対応させることで、あらゆるものの類似点や共鳴する力、影響の相互関係などを知ることできるし、利用方法はまさに無限といえる。

クリフォトは、このバランスのとれた生命の樹に相反するもので、バランスのとれていない矛盾と混乱の体系ともいえる。

正確にはクリフォトは、生命の樹のセフィロトに反対する力で、そのためにひとつひとつのセフィロトには「天使」の名前が、ひとつひとつのクリフォトには「悪魔」の名前が与えられている。

今回の「クリフォト・タロット」は、悪魔という「ひとつの人格を持った存在」は使用せず、クリフォトの特徴を簡潔にまとめ、理解しやすいようにデザインされた。

また「黒魔術」という名称から、悪魔教や呪いを想像する人がいるかもしれないが、セフィロトが正統的な魔術の体系のものであるなら、クリフォトはそれに相反するもの、ということで「黒魔術タロット」というタイトルがつけてある。

魔術といえは、1900年前後に世界中に散らばる精神世界の修行法を体系化して、一般人が生活に活用できる、実用的な魔術を開発した「黄金の夜明け」団がある。なかば伝説化している英国の団体ではあるが、この「黄金の夜明け」団系統の団体は、直系団体をひとつ残してその痕跡をほとんど残していない。しかし、カバラを中心とした魔術体系とその思想には、現代の魔術を志す者は必ずなんらかの影響を受けている。

今回、紹介する魔術、つまり、邪悪な魔物たちの存在を見抜き、その影響から逃れるための魔術メソッドも、まったく同じことである。そこには「黄金の夜明け」団の教団が、脈々と流れているのだ。さて、では、私たちの世界に入り込んでくる本当の悪魔とは、いったいどんな存在なのだろうか？

アンバランスとカオスを好む「クリフォト」

魔術の基本思想に「生命の樹」というシンボルを使用して、さまざまな儀式、さまざまな魔法図形を創造する方法がある。この生命の樹は10の要素に分かれており、おのおのに名前と個性が与えられている。

10の要素は「セフィロト」と呼ばれ、「善」やバランスのとれた世界を構築している。

その「セフィロト」に敵対する要素がある。バランスのとれた世界を憎み、アンバランスとカオス（混沌）を好む、無意味と無価値、邪悪の根本要素「クリフォト」である。

クリフォトは「バランスがとれていない状態」そのものであり、形や人格を持っていないだけだが、悪い。これこそ本当の悪魔だといってもいいだろう。

ではなぜ、姿形や人格を持たないクリフォトが、その存在を現実

の世界に現れたり、人間に影響を与えたりするのだろうか？

クリフォートには、人の思考をにぶらせ、人の生命力を奪う力がある。その力を他人におよぼせば、自分の欲望や欲求を満たせる……

そう考えた愚かな人間がクリフォートに共鳴し、知ってか知らずかクリフォートを象徴する図形や言葉を使用するからである。

また、魔術の知識のある者が、よこしまな考えで他人を不幸におとしめようとしたりするために、悪魔の力を呼び出す方法として、クリフォートを利用することも考えられないことではない。

ときにインチキ能力者などが、



知らずにクリフォートのシンボルを用いてしまった場合などは最悪である。自分だけがとりつかれてしまうならまだいいが、他人にまで被害をバラまくことがままあるからだ。

▼▼現代社会に氾濫するクリフォートのシンボル

昔から、魔術師と呼ばれる人たち（日本では弘法大師などが魔術師）に相当する人間と見受けられるが、悪霊や悪魔、妖怪などと呼ばれるクリフォートの力を、その能力を用いて倒し、封じ込めてきた。

しかし、インチキと欲望が渦巻く現代社会においては、クリフォートのシンボル自体が多く氾濫し、数少ない魔術師の手では破壊しきれない悲惨な様相を呈している。だからこそ、私たち一般人がクリフォートのシンボルをいち早く発見し、破壊や封じ込めはできなくと

も、一刻も早くそれを遠ざけ、身の安全をはかるべきなのだ。

クリフォートの象徴が氾濫しているのもいいじゃないか、という人もいるかもしれない。

しかし、私たちがクリフォートの影響を受けると、先に述べたように生命力が奪われるので、病気になるったり、ノイローゼになったり、かなり直接的な被害を受けるのだ。決して安易に考えるべきものではないのである。

ノイローゼから精神を病に陥れ、やがて自殺にいたる可能性も否定しきれないばかりが、クリフォートの影響下に集まった集団は、仲間内のリンチや、あらゆる他人への攻撃を始める。

こうした行為がよいことだと思おう人は、まさかないであらう。クリフォートは忌むべきものであり、身近から絶対に遠ざけておくべきものなのである。

▼▼クリフォート・タロットは悪の力を見抜く手本

さて、今回、紹介する「黒魔術タロットの秘法」では、24枚のタロット・カードを使う。このタロットは間違っても古いなどに使用しないようにしていただきたい。なぜなら、このクリフォート・タロットに暗示されているものは、クリフォートの邪悪なシンボルその

ものであり、未来などを占おうとすれば、邪悪な未来、不幸な運命しか出てこないからだ。

不幸になりたいなら占いに使ってもいいかもしれないが、もちろんおすすすめはしたくないし、まさかそんなヘソ曲がりな人もいないだろう。

クリフォート・タロットの一大特徴は、各カードのシンボルとして描かれているものが、邪悪のシンボルであるがために、邪悪であるものを発見する際の指針や、邪悪な力を擬人化して破壊しようとする際の、よい手本となることだ。

たとえていうなら、犯罪者がいるのを見て「ああいうことは悪いことだからしないようにしましょう」とか、「犯罪を犯した者には報いとして罰がくだる」などの考えを持つのと同じことなのである。

悪であるものをはっきり知らなければ、それを遠ざけることはできない。その意味で、クリフォート・タロットは敵の正体を知るためだけに使うべきものなのである。

間違っても、邪悪なものや邪悪な力にあこがれ、クリフォート・タロットで他人の不幸を占い、邪悪な考えに自らを没らせないでいただきたい。そうしたミスをおかせば、クリフォートの力に毒され、食らいつくされるのは必定なのだから……！

「クリフォート・タロット」に秘められたシンボル

前述したように、クリフォートは、無意味と混沌の体系である。したがって、クリフォート・タロットに対して意味を見出そうとすることは、逆に無意味なこともかもしれない。

しかし、そうはいっても、クリフォートの悪影響を遠ざけるためには、ある程度のことば心がけていなければならぬ。そこで、クリフォートに対する認識を深めるために、またクリフォート・タロットを応用するためのヒントとして、カードの解説を行っておく。

ファースト・メソッドにおけるカードの解釈の一例としても利用できるだろうし、このあとに紹介するセカンド・メソッド、そしてクリフォートの影響力を追いほらう魔術儀式などにも使用するので、ざっとでも目を通しておいてほしい。

さらに理解を深めるために、自分の気のついたことがらをメモしておくのもいいかもしれない。理解が深まれば、それだけクリフォートの力を透視する能力も強くなるだろうし、対抗策なども立てやすくなるだろう。

もちろん、ある程度の実力があいたならば、他の魔術の技法同様、他人が困っているときなどに、この知識を利用することもできるようになるはずだ。



STORM

大いなる竜巻。空気が渦巻く中における混沌の象徴。破壊と殺りく喜びを震えているエネルギーの形だ。

すべての混沌、クリフォートの脅威はここから始まる。

牛はなぜ、首だけになっているのだろうか？ そして、この、まがまがしさしか感じさせない全体の雰囲気！

そうだ、このカードだけでなく、クリフォート・タロットに描かれている光景は、私たちの世界によく見られているものなのだ。

昔はつむじかせ（竜巻の子供みたいなもの）はよく見られる現象ではなかったはずだ。しかし、現

魔術結社「黄金の夜明け」団とタロット

魔術を、「生命の樹」を中心とした一大体系にまとめた貢献者が、英国の魔術結社「黄金の夜明け」団である。

1888年に創立された「黄金の夜明け」団は、マクレガー・メイザース、アラン・ベネット（英国仏教協会創立者）、アレクスター・クロウリーなどといった、いずれも魔術の歴史に輝く人々を輩出し、1900年代なかばには消えていった。

「黄金の夜明け」団の特筆すべき第一の点は、テストによって位階があがっていくという「位階制」を確立したことと、あらゆる宗教的・心理学的・魔術的な「精神世界の象徴」を、生命の樹を中心として分類・再構成を可能にした点だろう。

それまでは遊戯や賭博、占い遊びなどに使われていたタロット・カードを、生命の樹に対応させて矛盾を極力なくした魔術用具に再構成させたことは、魔術の歴史において空前絶後ともいえる試みである。

この「黄金の夜明けのタロット」は、現在、残っていないが、それに極力近づけて製作された「ゴールデン・タロット・デッキ」が市販されている。

「黄金の夜明けのタロット」の影響を受けたタロットとして、いわゆる一般にライダー版として知られる「A・E・ウエイットのタロット」は、カードの番号に矛盾があり、魔術用具としての使用には適さない。

「トート・タロット」も「黄金の夜明けのタロット」の思想に強い影響を受けたタロットだ。現在では「アレクスター・クロウリーが黒魔術師だ！」などというカン違いもなくなってきており、クロウリーの作成した「トート・タロット」がタロットの主流となりつつある。

「黄金の夜明けのタロット」に影響を受けたものとして、ほかには「キュービック・ストーン・タロット」や「ヘルメチック・タロット」「ガレス・ナイト・タロット」などがあり、魔術のタロットに対する影響力の強さがうかがえる。

代では高層ビル街のそのことで、駅前商店街の陰で、あなたの会社の玄関で、そして学校の見えない片隅で、いつも木の葉や小さな虫たち、紙屑などを引き裂いて、渦巻いているのではないか。

そして、私たちが気がつかないうちにいつしか成長し、家を破壊し、人々を八つ裂きにしていくのだ。無意味に牛や家畜を殺し、必要以上にむさぼり食っている、バチアタリな人間に罰を与えるために……。



1



MAD

「狼だろっか? それとも妖怪だろっか? いや、世の中のひずみや狂気が、人間に近い姿をとろろとしてるのだ。」

人間になろうとしてなれないこのような存在を、人間は妖怪や物

の怪として恐れてきた。確かに妖怪の中には、善良な存在もいるかもしれない。しかし、ちょうど人間世界にも通り魔などという恐ろしい存在がいるように、無意味に人を傷つける存在もいるのだ。

無意味、無価値……、これこそクリフォットの望むものであり、クリフォットそのものである。

魔術師をきとったこの狼が持つものは「無意味」で「役に立たないもの」ばかりではないか。

サギ師が役に立たないものを売りつけてほくそえむように、そして、他人のためなど絶対に役に立たない「みせかけただけの超能力」もある。しよせん、役に立たないものは、役に立つホンモノのサルマネなのだ。

2



BUTCHER

屠殺。金のために殺し、喜びを得るために殺す……。産婆のようにも見える老婆。

いや、この表情を見てほしい。

そう、殺すために殺しているのだ。金や宝石が目当てなら、それらを地面に落としたままにしておくはずがない。

首を絞められているのは、本当は人形ではないのではなからうか

しかし、顔も見えないし、おおよそ人間らしくない。でも、今日もあなたの家のすぐそばで、あなたの町の中で、人間ではない赤ん坊たちが、生むための技術と同じ技術で、金とひきかえにとどこかに消えていく。

きつと、それは悪夢だろう。そんな行為は行われているはずがない……。でも私にはそうはいいい切れない……。あなたはどうかだろうか?

3



LEWD

緑の草原で、陶酔している様子の若い女性。ふくらみと、でっばり。暗示と隠されたもの。

太陽の光から隠されているものがなんなのか想像したまえ。そして隠されていないがゆえに、目に見えないものがあることを忘れてはいけない。

確かにこのカードは、クリフォット・タロットの中では明るいカードではある。しかし、明るさにまどわされてはいけない。

クロウリーを学ぼうとする者なら、このカードの暗示するものを必ず理解しなければならぬ。宇宙の秘密を覆い隠すペールは、そこにあるのだ。

4



FIRE WORK

火が、恐怖と破壊の姿を持つところなるのだろうか。火の中におけるクリフトの力が、ここには集約されている。

魔術の象徴としてよく用いられるのが火の中で破壊され、また破壊しているはずの、このみようちくりんな男もまた、火によってわが身を焼かれている。

いやがる様子もなく、喜んでいゝ表情も見受けられない。ただひたすらに焼きつくされ、なにに消えていく様子もない。それに火が持っているはずの活動的なエナジーもないではないか。

ここにはバランスもへったくれもない、無限の焦熱地獄があるのみだ。

5



HYPOCRITE

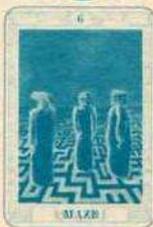
あらゆる信仰における、救い主のふりをしていゝ偽善者が描かれている。

しかし、彼が他人に対して、お金を強要しているように見えないう。彼はたて手を出して、お金そ

のものを欲しているのだ。そんな彼にお金を出す者がいるから、彼もその行為をやめることができないう。

このカードで、手だけが描かれている人間たちこそ、自分の欲望を満たすためにお金を投資し、それがうまくいかないからといって、さらに新しい救世主の二七者をまつりあげる、本当の悪なのだろう。まつりあげられている二七者も、二七者をまつりあげる者たちも、すべてクリフトの影響下にある者なのだ。そのことに気づかない事実こそ、クリフトの力の存在を示している。

6



MAZE

永遠に迷い続けてしまうだろうはてしない迷宮(ラビリンス)が描かれている。

迷宮の主人たちだけが、迷宮の中を戦を無視して歩きつづけることができるのだ。

恐怖の伝道士。快樂と極限の世界の果てにあるものは何か？

永遠の迷宮の向こうにあるものにあこがれてはいけない。迷宮自体が無限の迷いなのだ。ここから逃れる術はただひとつ。近づかないことである！

7



SADIST

たくましい王。国を治め、民衆の頂点に立つ者が、奇妙な生物に苦しめられている。しかし、この力強き王は逃げだすつもりもなければ、痛みを苦しんでいるようにも見えない。

痛みを味わい、逃げない者。痛みを味あわせながらも、それに喜びを見出す者。

地獄のカミソリはそこそこにあり、傷つけるだけでは満足できず、自らも傷ついてみせるのだ。

意志による行動なら意味を見出すこともできるかもしれないが、ここはクリフトの世界。そこには意味のない意味、意味を失わせる意味が「存在」しているのだ。

8



BRUTE

獣たちが人間を襲う。食べるつもりなのだろうか？ いや、人間は痛みを訴えているように見えないう。

食べるためではなく、いかがわしい目的で獣たちが集まってきているのだ。

獣の数は何匹だ？ その意味はなんだ？ ここに恐怖はない。恐怖ではなく、快樂の果ての不快感を超えてしまつてはいけないある一線が、ここに引かれている。クリフトに毒されると、人間は愚かにもそのことを忘れはてしてしまうのである。

彼女はカード3のLEWD=M OLLかもしれない。

クリフトの影響下でみる夢

普通、人間の見る夢には内容に矛盾があっても、気持ちが悪くなったりはしない。ところが、クリフトの影響を受けた人間が初期の段階で見る夢は、気持ちが悪くなり、途中で目がさめてしまうほど内容が混乱し、表現もできない夢を見るケースが多いようだ。

カンのよい人なら、この時期に、直感的にクリフトの影響を自分に与えているものを知り、自然にそれを避けるようになってくる。できるならこの段階でなんらかの手段を講じて、クリフトの影響から逃れるのが対処したいものだ。

それをやっておかないと、目を追うつれて混乱は形を持ち、クリフト・タロットの中に見られるような情景が現れはじめたり、混乱のイメージがあまりにも鮮明になってくる。こうなるとクリフトの悪影響が現れ、大変危険な状態に近づいたことになる。心して対処しなければならぬ。

9



BLIND

光なき中に、さらに光を得ることができない老人。危険な道が続いているようだが、それに恐れを感じておらず、むしろ危険の中に何か喜びを見出しているようにも、また道をわざと間違えているようにも見える。

行く手は危険で、破滅が待ちかまえているのだが、彼にはそれが見えていないのだ。

むしろ、それが彼の望みなのだ。このままでは、必ずや破滅が訪れるだろう。

10



WHEEL OF DESTINY

タロットと同じようなタイトルだが、こちらはFORTUNE(将来)ではなく、DESTINY(変えようのない運命)なのだ。このカードは変化する運命を表しているのだが、その運命は魂と肉体を傷つけ、その肉片をまとっている。呪われた運命でしかないのだ。

11



MASOCHISM

無慈悲な世界、無情な行為、やはり、このカードもクリフト・タロットにくり返し出てくる、いかがわしさと痛み、苦痛に満ちたカードとなっている。

12



HELPLESS

助けのない恐怖を意味しているカードである。しかし、このカードに助けを求める者の姿はない。

13



STOPPED

すべてが終わって、もうなんの変化もありえない様を示したカード。

13は、タロットでは死神のカードであるが、死は再生を暗示する。しかし、ここには再生ではなく、混乱と混沌、腐敗へいたるしかない道が示されている。

移り変わりのない「停滞」こそ、クリフトの望むところなのだ。



HYDROPHOBIA

狂犬病とタイトルされたこのカード。一見すると美しいが、人間の手になる公害のために、どうにもならないくらいに毒された海。人魚にとって海からの脱出は、すなわち死を意味するものなのだ。私たちが地球からの脱出＝死、またはすべての動植物を道づれにしての地球破壊の道を進んでいるのではないか。



DELUSION

泥酔。そこで見える幻覚は悪夢。悪夢からさめても具合は悪く、寝ても見るのは悪夢。いったい彼はどこへいくのか、どうすればよいのだろうか？ 無限に続く苦しみと、果てしない嘔吐感がつきまとい、決して離れることがない。



BUILD

建設。たくさんの奴隷と犠牲。

弱いものいじめで、黒い親方が高いビルを建てた。しかし、見よ！ あれはバベルの塔ではないか！ 倒れるぞ！ 破壊されるぞ！

近づいてはいけない。神の怒りは、必ずやこの悪魔の巣窟を破壊するであろう。その塔の最期の光景は、通常のタロットの16番「塔」に表されている。



RUIN

全破壊への逃げようのない落下。世界が向かっているのは、こうした破壊の光景でしかないのだろうか？

いくら恐怖や苦しみを訴えても、このカードの次の光景は「おびたらしい死」と「破壊」しかないのだ。



ODIUM

反感、憎悪、むかつきをおぼえるカード。しかし、町の裏側にはどこにでもころがっている光景なのだ。

人間の精神の中に必ずころがっている嫌悪が、姿を持つ、その一

月刊宇宙の理

地球の天位転換期に際し、宇宙の叡智者より通信あり
— 会員募集 —

「宇宙の理」は個人的には「洗心」と「瞑想」により人格の向上（智恵と悟り）を目指し、社会的には啓蒙の書として広く頒布されている。洗心と瞑想が行き届いて世界浄化の器械となった同志が平成元年4月現在で10名居る。

- この社会は科学技術が急速な進歩を遂げている反面、環境破壊、難病、事故、紛争などが拡大している。この進歩と破壊という矛盾をいったいどう考えたらいいのか。この社会の裏側で何が行なわれているのか。この真実を知って対処しない限り個人の真の幸福も真の平和もあり得ない。●本会はこの社会の裏側で行なわれている画策を暴露し、本来どうあるべきかを解いている。
- この宇宙は人間の存在も含めて偶然に出来たものか、それとも何かの意図があって存在しているのか。●人間の死後の世界や輪廻転生は有り得るのか。●人間の生きる目的はどこにあるのか。人間はアメーバから進化したものなら、この先は何に進化するのか。
- 本会は宇宙の叡智者（神や優良星界人）から頻りに通信を受け、これら多くの事柄を全て教えられている。

- バックナンバー 送料共400円（タイトルは神界通信の内容を必ず）逐第96号（S56年1月号）大宇宙の構成。97地球人類と霊位靈性。98第五惑星壊滅の原因。99汝等生命の為に生きよ。100勝者の理論は天が裁く。101宿業消滅の原理。～（平成元年4月現在）逐第195号。毎月1号増える。（但し現在欠番11巻）
- 年会費8,000円「宇宙の理」（A5版元年4月現在100頁）毎月1冊送付。中・高生、ご高齢者半額。●会員は質問自由。病氣、悩み事の相談「宇宙の理」参照。●「洗心」と人格形成の神の御言葉「菩薩テープ」1・2巻。●神・優良星界人・霊界人・邪神の告白などS40年までの実況録音「天界テープ」第34巻まで。●心を明るくする音楽「心洗いの曲」第6巻まで。●神霊星界、地獄霊・先祖霊・守護霊、邪神や邪霊の告白～改心～抹殺まで多くを展開する実況録音「霊浄テープ」元年5月現在110巻まで。いずれのテープも60分カセットテープ。●「宇宙の理」には時事評、諸論文なども掲載。●本会は宗教団体ではない。
- 案内書請求、62円切手2枚封筒に入れて送付の事。

本会の略歴

昭和28年「洗心」によって神界・霊界と交信。同32年より星界と交信。同54年より自動書記により神界通信毎月受信。同63年春より霊界浄化始まり、そのうち神界・星界と交信。

ザ・コスモロジー

〒165 東京都中野区
上サギノ宮4-6-24
振替 東京 8-99691

瞬かもしれない。美しい町の歩道の隔に、それはいつでも存在している。



このカードに関しては、6番のカードとの関連で考えてほしい。無限に広がる迷路と、有限の中に無限の迷いを封じ込めたパズル。どちらも無限の迷いなのだ。なにことも無限に続くということはない。案外、恐ろしいことなのかもしれない。

20



RETURN

ゾンビの復活である。生きた人間に襲いかかる、死んだ人間。憎いとか、いやだと思つて人間を殺す生きた人間も恐いが、無意味に襲ってくる死者もまた、恐怖の対象となりうる。

21

このナンバーを持つカードはない。21は世界を表すからだ。この世界がクリフトに毒された世界でないように、祈りを込めて21番のカードを削除する。

22



NORTH OF HEAVEN

この2枚のカードは、極寒と極熱という相反する地獄的特徴を表す。

空虚の中に、こつぜんと存在する孤独感に満ちた「NORTH OF HEAVEN」。

そして、押しつけられるほどに近づけられた、真つ赤に焼けた鉄「SOUTH OF HEAVEN」。

青は虚しさで冷血を、赤はしたたり落ちるような血と、なまなましい肉を暗示している。天国の北の果て、南の果て。パ

23



SOUTH OF HEAVEN

1枚だけ入っている、真つ黒なカードである。

永遠の暗黒。諸力の消え失せた宇宙の墓場。ブラックホールをイメージする人もいるだろうが、ブラックホールは強大な重力場によって存在を知ることができる。ここに描こうとされたものは、存在

さえもありえない無、そして無自体も消え失せる絶対の限界なのだ。しかし、このカードは、クリフト・タロットの中ではただ一枚

未来の可能性を示している（かもしれない）カードでもある。魔術の学習が進めば、あなたにもその理由がわかるかもしれない。

「人間よ、光を待ち望む、その感情にうち震えよ！ バンの夜のとほりより脱出せよ！」

そう、すべてが終わったあとには、何かの始まりしかありえないのだ。ただし、意志が存在する限り！ である。

ランスの世界の果てにあるものは、やはり地獄の光景なのであろうか。いや、これはまきれもない私たちの世界の光景なのだ。

「クリフォット」の影響をわねてくるものを見極める

クリフォットの象徴するものを簡単にいうなら、それは「悪魔的な力」ということもできる。

ここでいう悪魔とは、人間の考えるところの悪魔のスタイルや、人間を誘惑する「ちやめつけ」のある「精霊のような無害のものではない。

人間の中には「人を傷つけて喜ぶ者」「人に傷つけられて喜ぶ者」など、多くの種類の人間がいるが、

この悪魔は、他人の不幸や悲しみ、恐怖、苦しみなどをむさぼり食って生きる悪魔であり、絵に描かれた悪魔の姿などしていない。

他人の悩みの相談にのるフリをして、心の中で優越感にひたる者、また、いい方向に導くフリをして、世間から隔絶された生活を勧めたり、自分は高いところから他人の苦行を俯瞰している者は、異次元（アストラル界）のレベルで「他人の悲しみの感情」や「苦しみの感情」、あるいは「痛み」「世界自体へのおこり」「一般人への恐怖」などのエネルギーをむさぼり食っている「クリフォット」とりつかれている人間」である。

古より人間は、そうした「クリフォット人間」を吸血鬼として恐れ、さまざまなシンボルを用いて遠ざけてきた。

吸血鬼たちは、悪魔の姿をした道化師より悪賢で、神の名をかたつたり、ひどいときには神の姿をおとしめるような絵、行動、アクセサリーなどを広めようとするのである。

さて、こうした一見無害な姿をした「クリフォットの力」がおよんでいる「もの」が、そうでないかを見極める際に「クリフォット・タロット」を利用することができる。クリフォット・タロットは、先にも述べたように、純粹に「悪の力」、

すなわち「私たちの住む世界に、絶対的によくない影響を与える象徴」を用いているため、クリフォットに影響されているものは、このカードの中の象徴を、知らず知らずのうちに、もしくは故意に使用することとなる（ただし、10番目の「WHEEL OF DESTINY」のカードは例外である）。

こうしてクリフォットの力に毒されているものに関係したり、近づいたりすることは非常に危険である。

次にセカンド・メソッドとして、クリフォットの影響下にあるものを見つける方法について述べていこう。

クリフォットと吸血鬼

クリフォット的な影響を受けている人間は、精神的な（アストラル）エネルギーをクリフォットに吸収されてしまうため、無意識的にまわりの人間のエネルギーを吸収したり、地上の動物の肉を必要以上に食べようとする。これは、エネルギーの消費があまりにも急激なために、通常の方法では維持できなくなるためだ。

こうした人間は、他人や生きている動物からエネルギーを直接的に奪うため、霊能力的な力をちょっとだけ持っている人間から見ると、まるで「吸血鬼」に見えるわけだ。

魔術の達人になれば、別にその人間を倒したりしなくても、その強い意志力と精神エネルギーによってクリフォットの影響を取り除いてあげたり、また儀式や象徴を用いてクリフォットの「入口」をふさぐこともできる。だから、そうした「クリフォット吸血鬼」を必要以上に恐れる必要はない。



STEP1「同じ気配を持つカードを選ぶ」

①もし、あなたのまわりにクリフォトの影響を受けているものがあるという気配を感じたならば、その気配を感じたものと、同様の気配（ここが重要！）を持つカード、同様のシンボルを用いているカードを捜すのである。

もし、そうしたカードが見つかったならば、そのカードをよく観察し、気配を感じたものと、カードの暗示するものとの類似点を極

STEP2「魔術家に相談したり護符を使う」

③ただし、あまりにも自分がひどい状態であると感じた場合や、自分の力ではどうにもならないと感じた場合には、個人的な操作をすぐにとりやめ、クリフォトもしくはアストラル界についての深い知識を持った人（魔術家）に相談す

力あげてみる。

②類似点の印象が強烈で、かつ邪悪なものであれば、クリフォトの影響を受けていると判断する。ただし、カードの暗示するものがたくさんあり、かつ印象が薄い場合には単純な思い込みであり、自分の中の精神バランス（もしくはアストラル的な霊的骨格）のゆがみである可能性が高いとみて、ファースト・メソッドを行うべきだ。

べきである。

これは、自分自身がかなり深いレベルでクリフォトに影響されていると感じた場合も同様。

ただし、妖精について詳しいとか、アストラル体が見えるというようなレベルの人では話にならない

い。最低限、さまざまな技法により、直接的、間接的にアストラル体に影響を与えることのできる人でなければならぬ。

④クリフォトに影響を受けているものに対して、抵抗しようとして、反撃しようなどと思っ

けない。
そう思うだけで、クリフォトの力との関係を持つことになるからだ。このへんが、いわゆる悪魔などとの違いでもあり、クリフォトの凶悪かつ、悪質な点である。

⑤クリフォトの影響力から身を守るために、クリフォトに影響されているもの、もしくは人と出会ったり、思いだしたりするたびに護

符を取りだし、護符のシンボルに対して意識を集中させるか、護符がない場合は、護符のシンボルを脳裏に思い浮かべ、それに意識を集中させることである。

あるいは、ステップ1で選んだカードを使って、次に紹介するサード・メソッドを行ってもよい。いずれもクリフォトの影響力を身辺から遠ざけることができる。

「クリフォート」の影響力を追いはぐりー！

さて、身のまわりにクリフォートに影響されたものがあつたりすると、精神の深い面での悪影響が心配される。

なんとなく気分が悪いとか、寝つきがよくないなどから始まって、夢の中にクリフォート・タロットにとりあげられているシンボルがくり返し現れ、不眠症になったり、あげくはノイローゼから対人恐怖、幻聴、幻覚などに悩まされ、それが事故や自殺につながるケースも

STEP1「火と水の象徴」に留意する

留意するものは、そのカードの持つ象徴によって違ってくる。

●Aもし、クリフォートの影響力が「火によって弱められたり、燃えてなくなるもの」で象徴されていたのであれば、紙と鉛筆（書ければなんでもよい。ただし黒に限る）と、その紙を燃やしてもいい環境（危険でない場所や容器など）を用意する。

●Bもし、クリフォートの影響力が「水によって弱められたり、流されてしまうもの」で象徴されるものなら、すぐ水に溶ける紙（デ

き）とはいえない。

そこで、クリフォートの力や、クリフォートに毒されたものとの関わりを絶つために、簡単な儀式を執り行うことも必要だ。

儀式というところがかなり大きなように思う人もよくいるようだが、いわゆる「おまじない」程度の用意と時間でも、かなりの効果を期待できるものもあるのだ。

では、儀式のやり方を説明していこう。

いこう。

イッシュでよい」と、その紙に書ける筆記用具（必ず黒）、そして、なるべく水の流れのきつところ（川ならベストだが、水洗トイレや流しなども利用できる）が用意すべきものだ。

もしも、A、Bどちらにも属するか、もしくはどちらとも判断できない場合には、とりあえずAの用意をする。

STEP2「クリフォートのシンボルを描く」

●A、Bどちらの場合も、ファースト・メソッドやセカンド・メソッドで選択されたカードと、その中に含まれる象徴で、もつとも関連の深いと思われるシンボル（複数でもよい）を紙に描くことから始める。配置はどうでもよいが、大きさは紙いっぱい描いたほうがよい。

感情をぶつけ、憎悪、恐怖、苦痛などのイメージを、絵として吐きだすように描きつけるとよい。この際、自分の中からわきあがるそれらのイメージを、記号や絵として自由に表現することができたらベストである。

●普通、魔術の儀式というところから清めの儀式や、集約のため

の呼吸法などを行うのだが、クリフォートの存在は絶対的に「悪いもの」だから、そんなものに集中したり、それを清めようとすることは無意味だ。

また、この儀式にあたって、特定の神や魔術の流派との関連を考える必要もない。神をクリフォートと関連させて考えるなどは（もし神の存在を認めている人ならば特に）神を冒瀆し、汚すことである。くり返すが、クリフォートは「絶対悪」の象徴なのだ。



